

景気動向調査報告書

令和6年4月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和6年4月末）を基準とした業況等について
まとめた報告書です。

岡谷市産業振興部工業振興課・岡谷商工会議所

- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和5年4月	令和5年10月	令和6年4月	令和6年10月

- 調査業種及び調査企業

(件数)

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	27	11	7	12	3	100
回答企業数	40	27	11	7	12	3	100

- 従業員数

人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	29社	13社	11社	9社	11社	17社	10社	100社

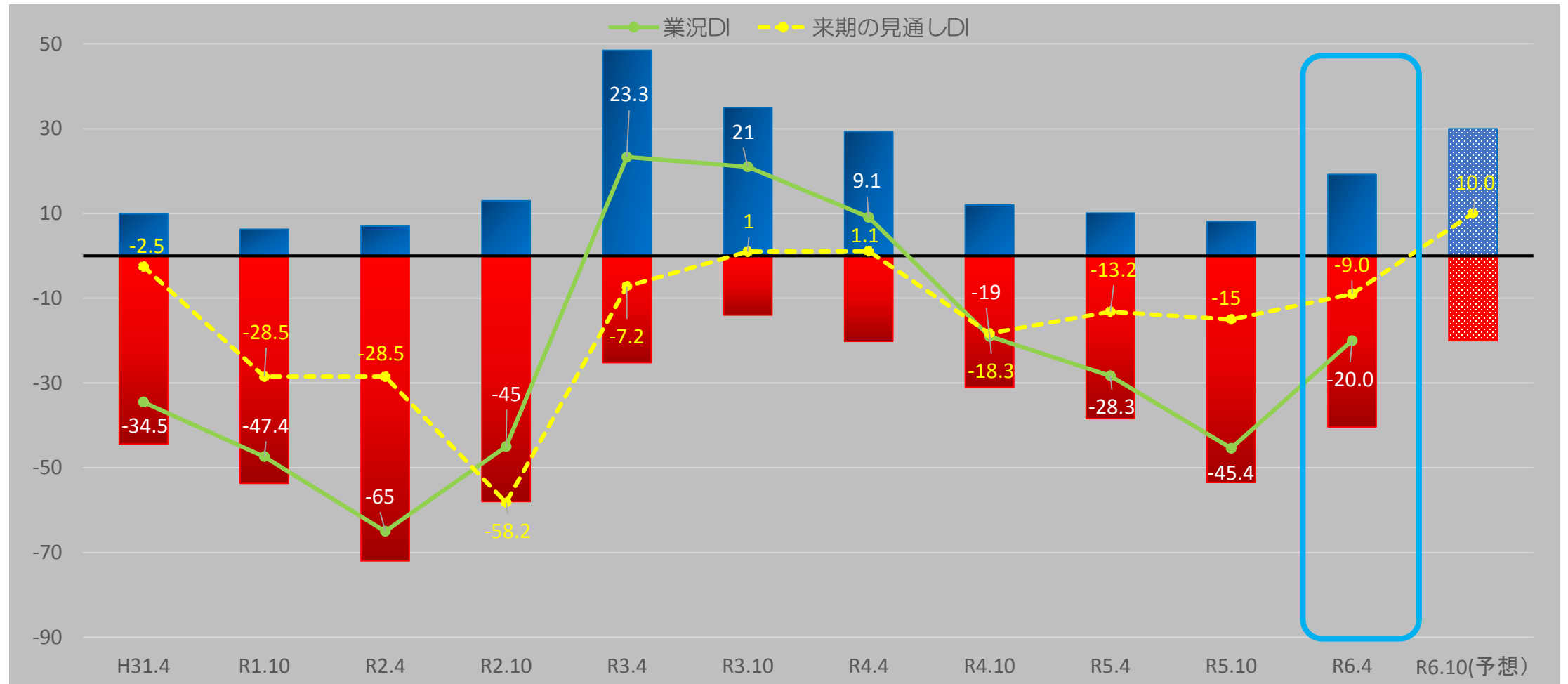
令和6年4月景気動向 調査結果のポイント

- 今期の本市製造業の業況DIは、半導体関連や産業用機械関連の生産回復の遅れなどによる受注の弱まりや幅広い分野で低調・横ばいの状況が続くとともに、原油価格・物価高騰は収益に影響を与えており、4期連続でマイナス水準となりました。他方、自動車や医療関連の一部では堅調に推移し、また新規顧客の開拓の推進などから、業況は改善傾向を示しています。
- 来期の見通しについては、業況DIは5期ぶりにプラスに転じています。自動車関連は増産・回復の兆し、また、これまで低調に推移していた半導体関連では回復基調が予想されるなど、受注の増加が期待されています。
- 資金繰りDIは4期連続で減少しており、各企業資金繰りが窮屈な状態となっています。今後、「原油価格・物価高騰等対策特別資金」を中心とした制度資金（融資）の利用が増えることが予想されます。
- 今期及び来期の見通しの業況を踏まえる中で、6割の企業で設備投資に意欲を見せており、うち4割の企業では省人化ロボットや自動検査装置などの導入を予定しています。多くの企業が抱える人手・人材不足への対応を図り、生産性の向上に向けた動きが見られます。

※棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇、余裕）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下、窮屈）の企業の割合です。折れ線グラフ（DI）は好転（増加、上昇、余裕）の企業の割合から悪化（減少、低下、窮屈）の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ（来期の見通し）は調査時の来期（6ヵ月後）のDI値です。

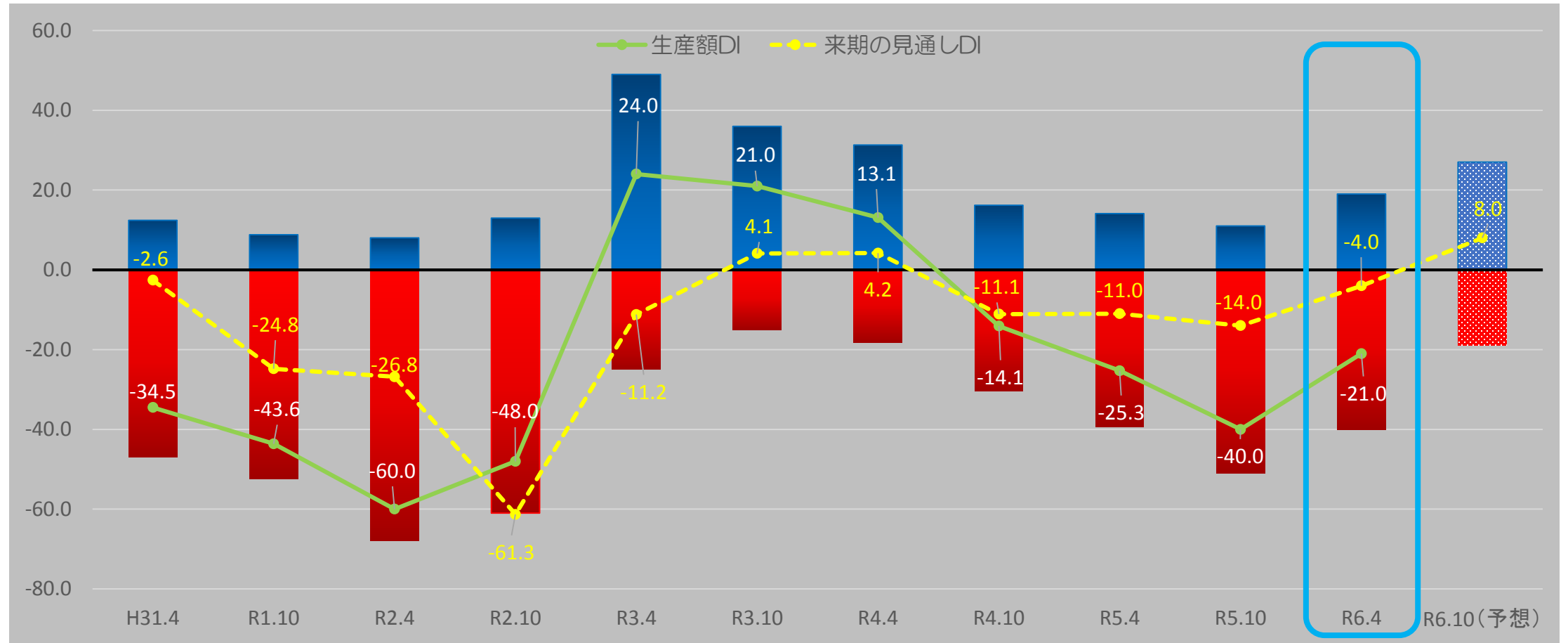
（原材料仕入価格については、棒グラフのプラス側は悪化（上昇）の企業割合、マイナス側は好転（減少）の企業の割合です。折れ線グラフ（DI）は悪化（上昇）の企業の割合から好転（減少）の企業の割合を引いた差です。）

①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



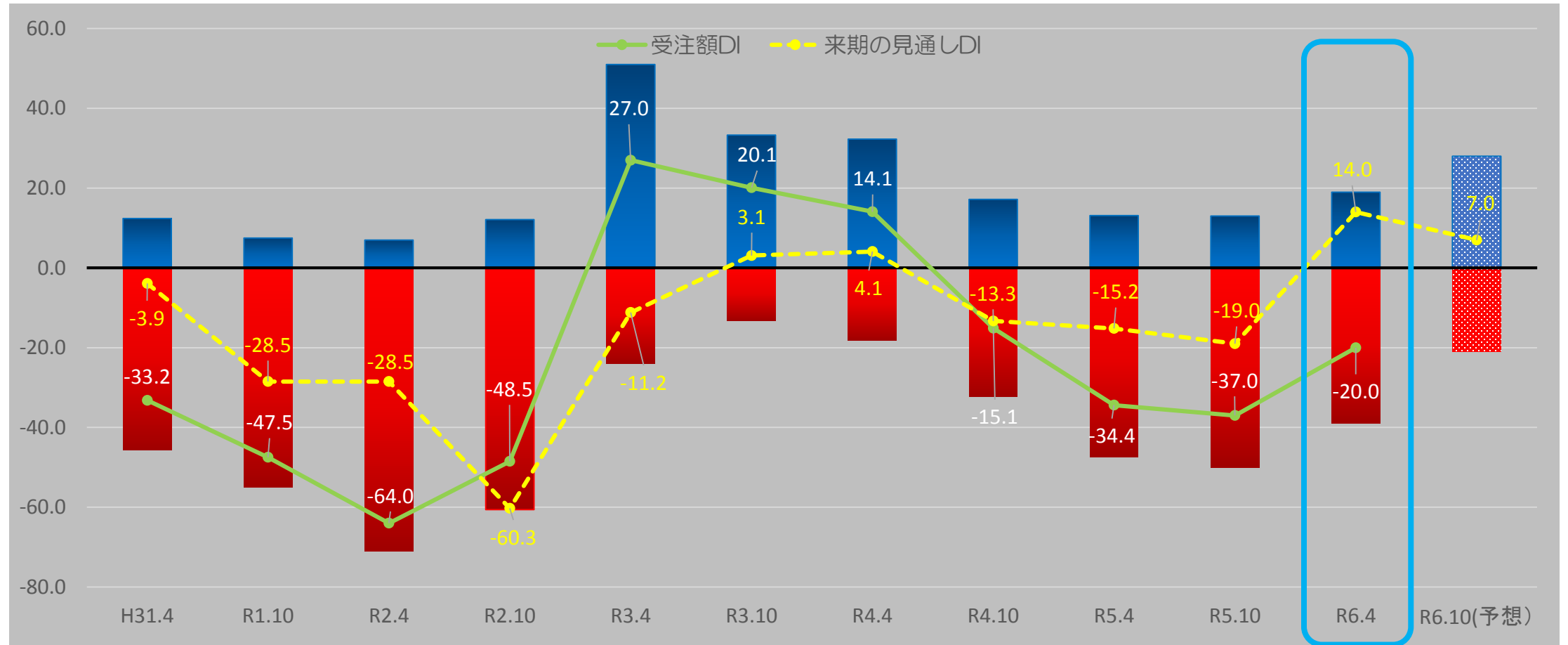
前期と比較したDIは、▲20. 0ポイントとなり、前期の▲45. 4ポイントより25. 4ポイント改善しました。
 また、来期の見通しDIは、10. 0ポイントとなり、前期の▲9. 0ポイントより19. 0ポイント改善しました。

②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



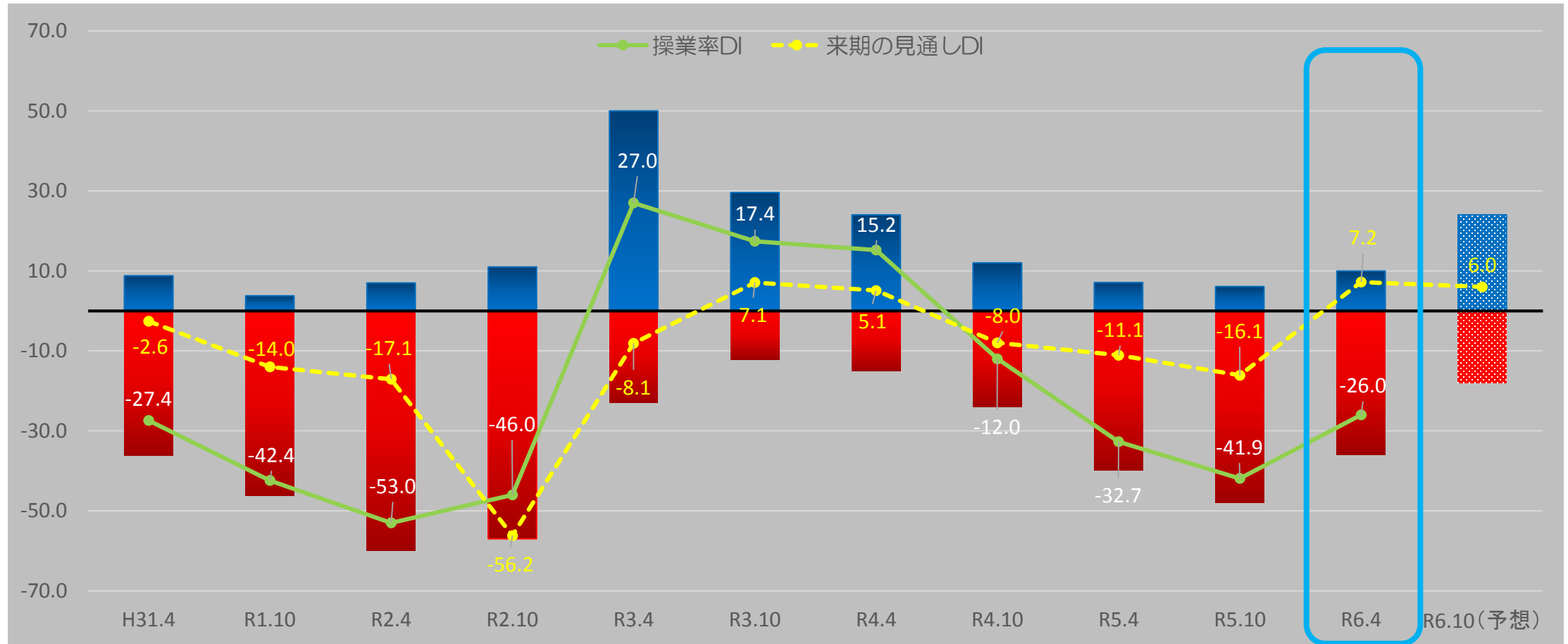
前期と比較したDIは、前期の▲40.0ポイントより19.0ポイント改善し、▲21.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲4.0ポイントより12.0ポイント改善し、8.0ポイントとなりました。

③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



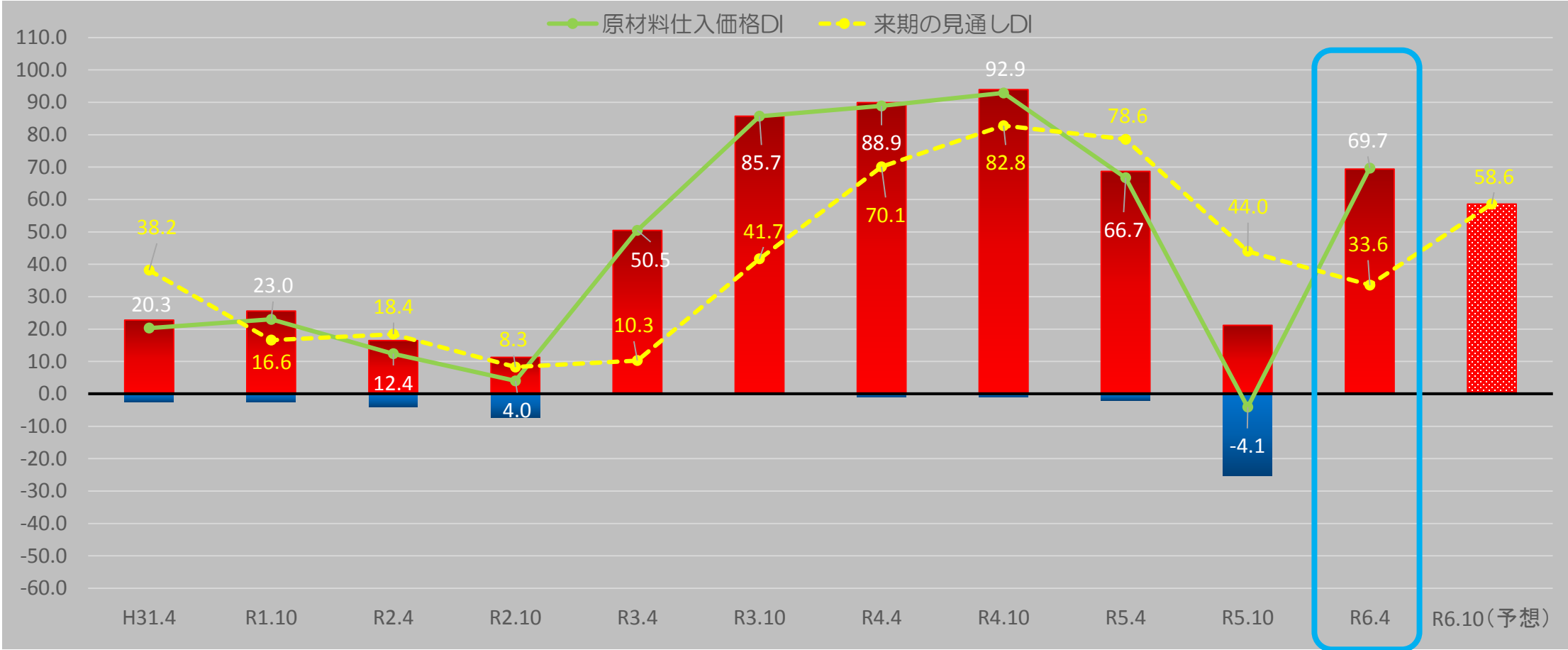
前期と比較したDIは、前期の▲37.0ポイントより17.0ポイント改善し、▲20.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の14.0ポイントより7.0ポイント悪化し、7.0ポイントとなりました。

④操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



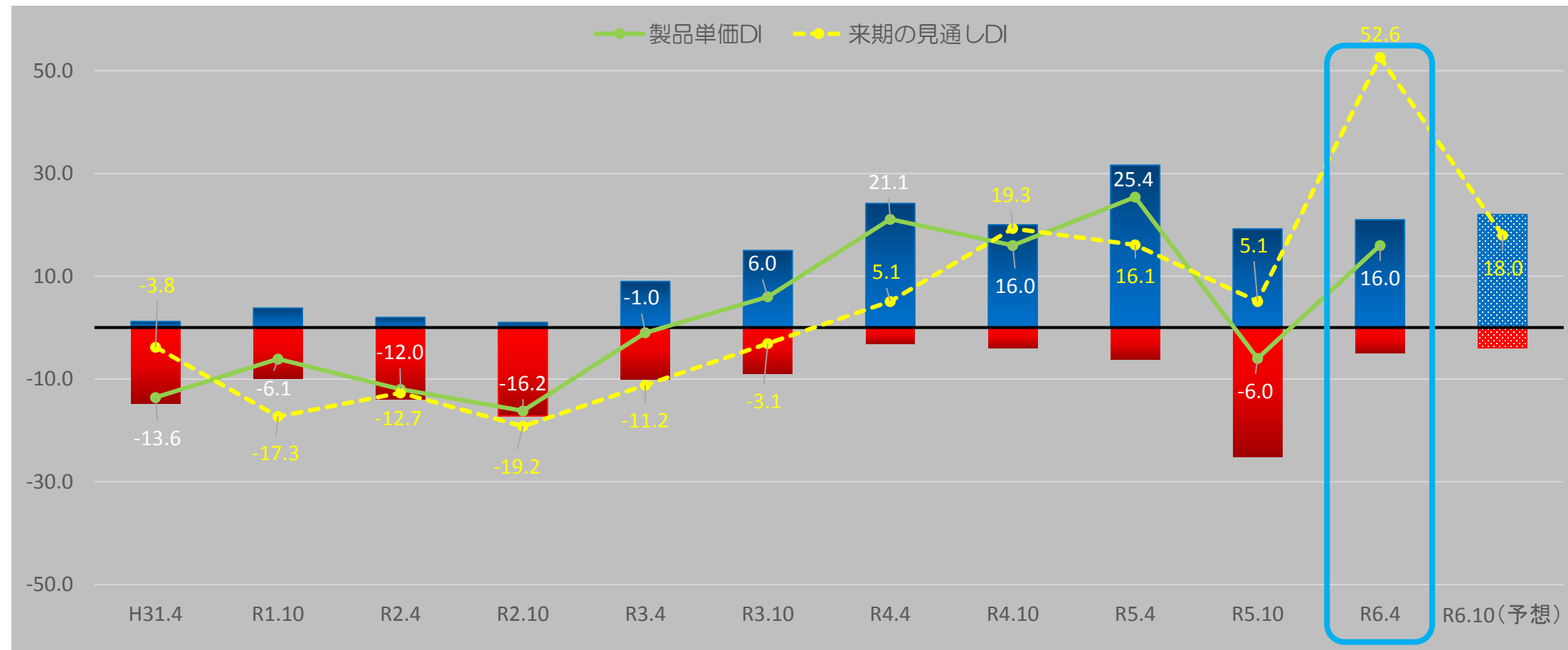
前期と比較したDIは、前期の▲41.9ポイントより15.9ポイント改善し、▲26.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の7.2ポイントより1.2ポイント悪化し、6.0ポイントとなりました。

⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



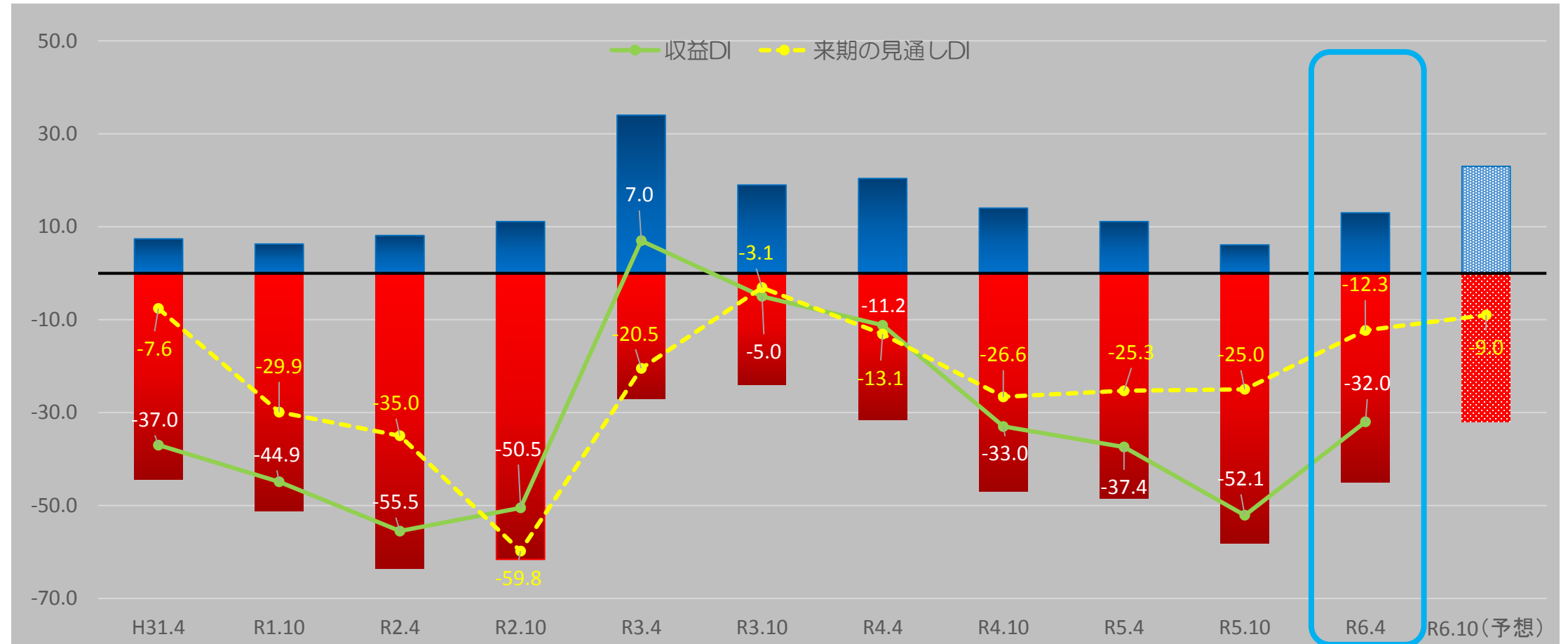
前期と比較したDIは、前期の▲4. 1ポイントより73. 8ポイント上昇し、69. 7ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の33. 6ポイントより25. 0ポイント上昇し、58. 6ポイントとなりました。

⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



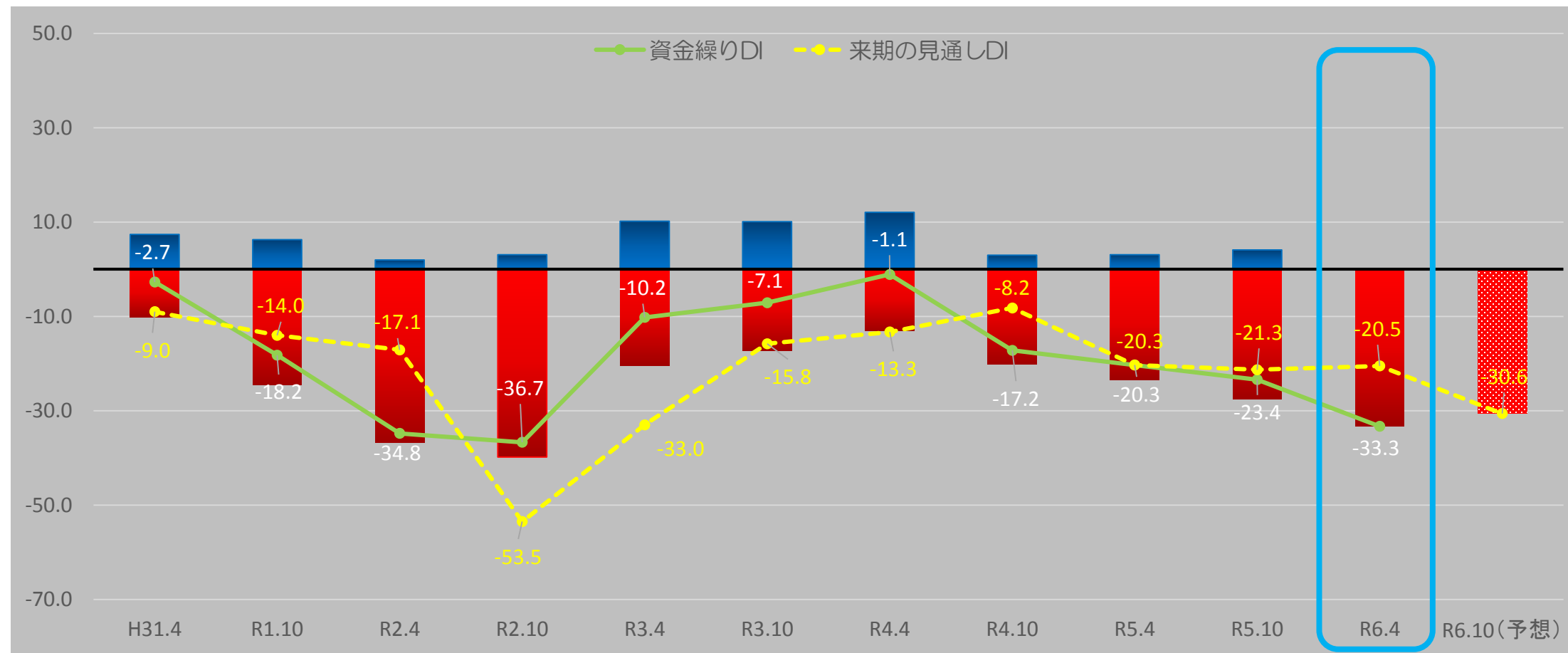
前期と比較したDIは、前期の▲6.0ポイントより22.0ポイント上昇し、16.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは前期の52.6ポイントより34.6ポイント低下し、18.0ポイントとなりました。

⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



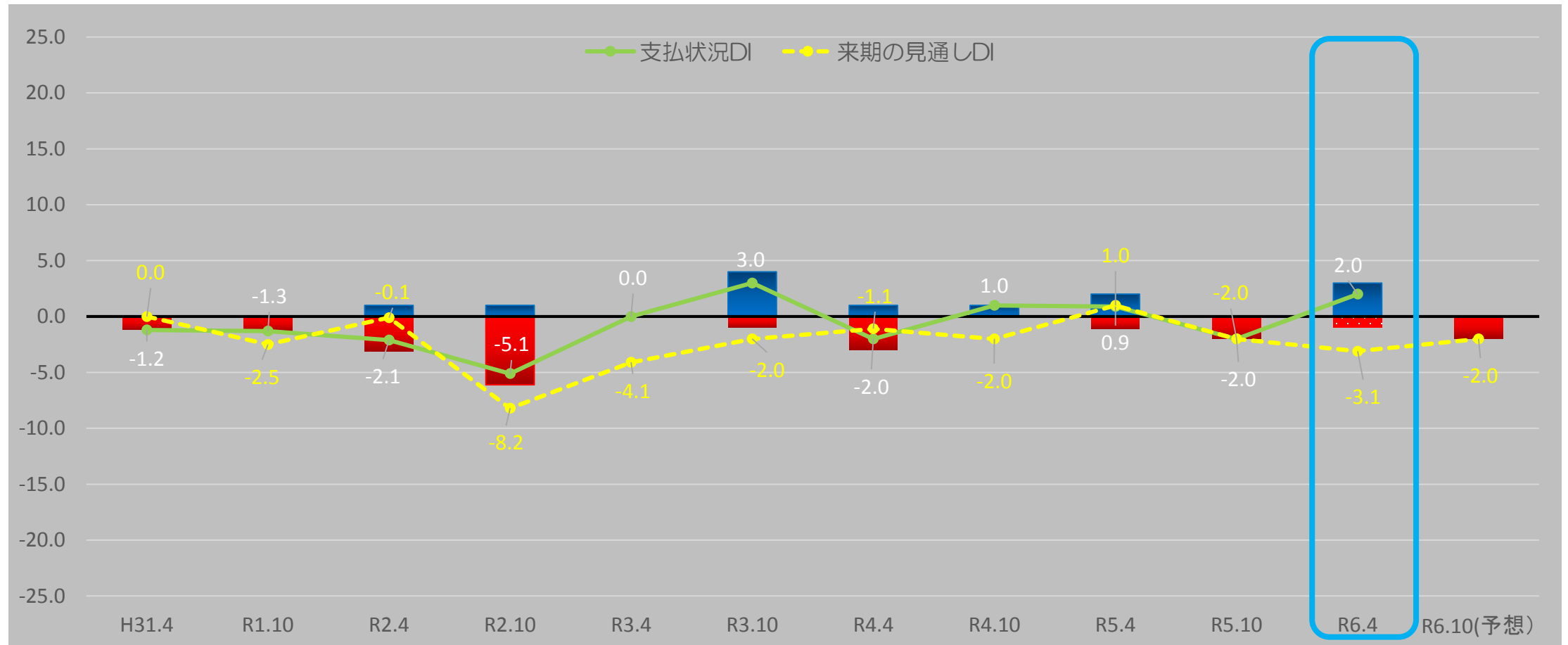
前期と比較したDIは、前期の▲52.1ポイントより20.1ポイント改善し、▲32.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲12.3ポイントより3.3ポイント改善し、▲9.0ポイントとなりました。

⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



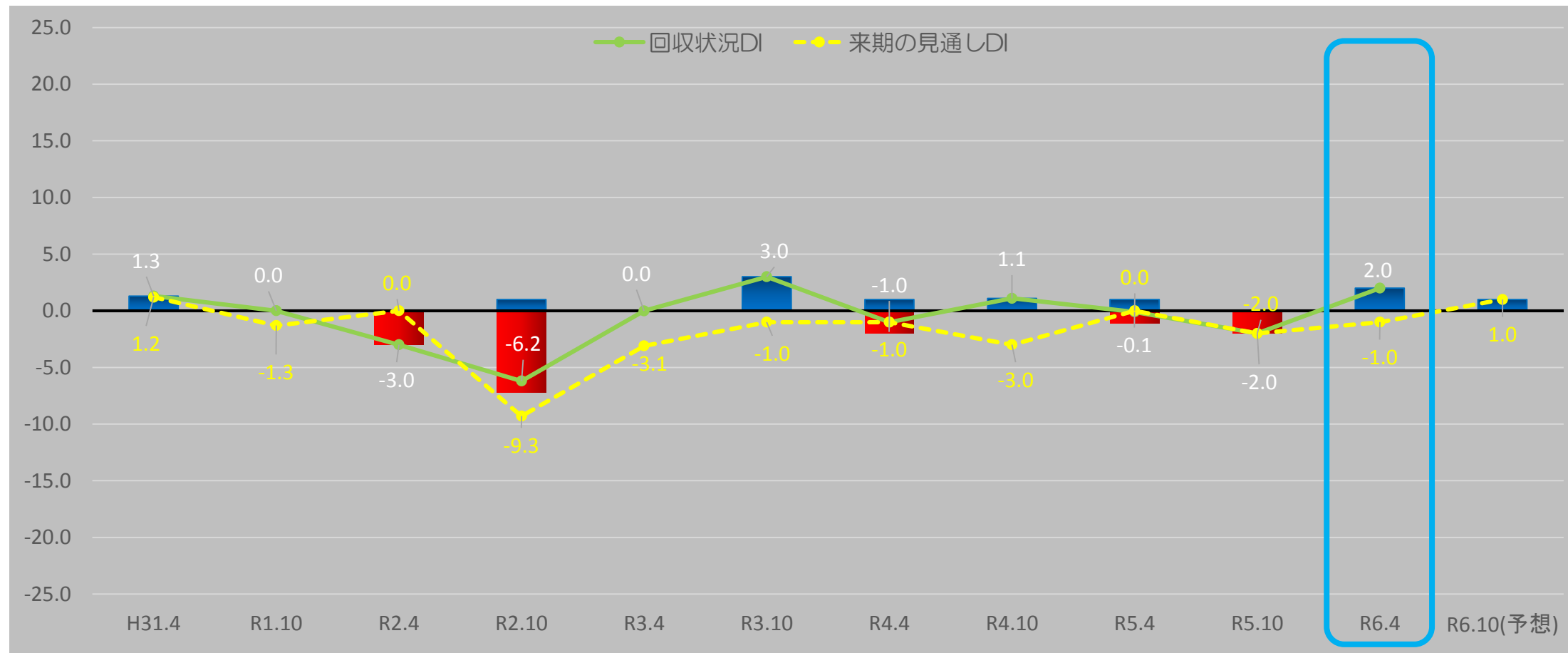
前期と比較したDIは、前期の▲23.4ポイントより9.9ポイント悪化し、▲33.3ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲20.5ポイントより10.1ポイント悪化し、▲30.6ポイントとなりました。

⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の▲2.0ポイントより4.0ポイント改善し、2.0ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲3.1ポイントより1.1ポイント改善し、▲2.0ポイントとなりました。

⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の▲2. 0ポイントより4. 0ポイント改善し、2. 0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲1. 0ポイントより2. 0ポイント改善し1. 0ポイントとなりました。

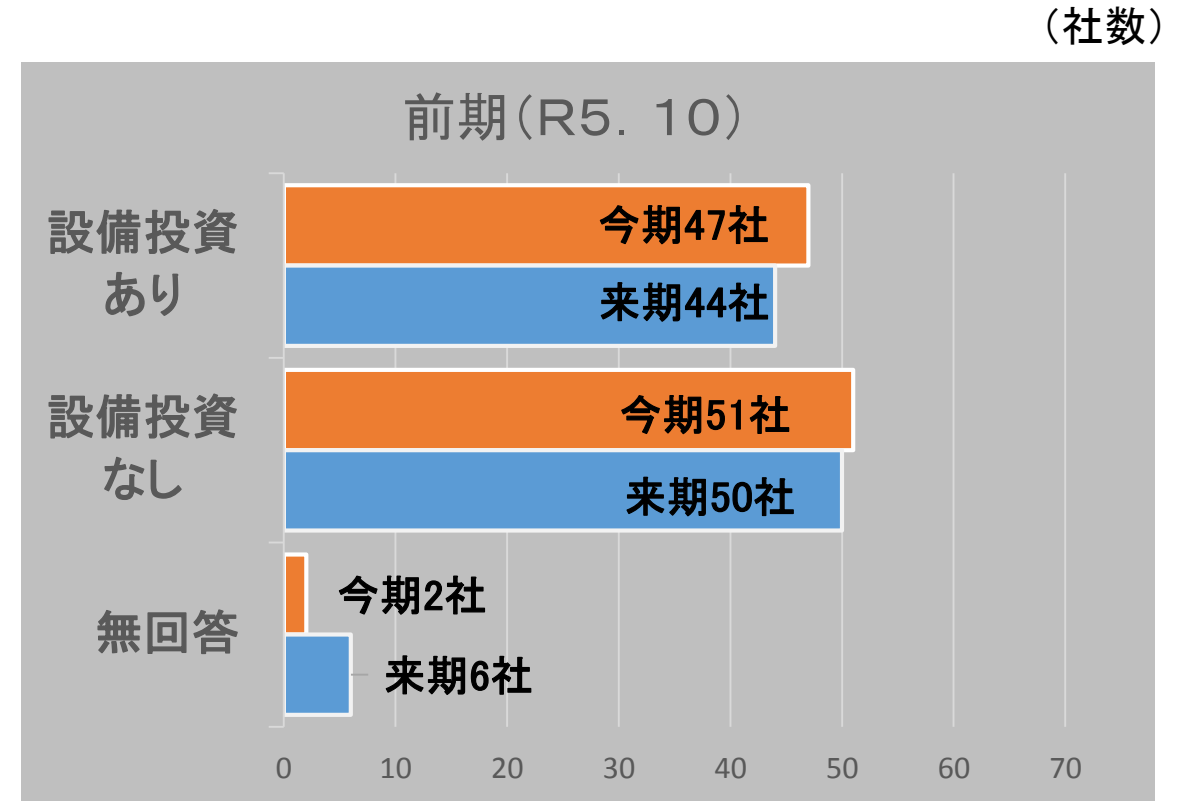
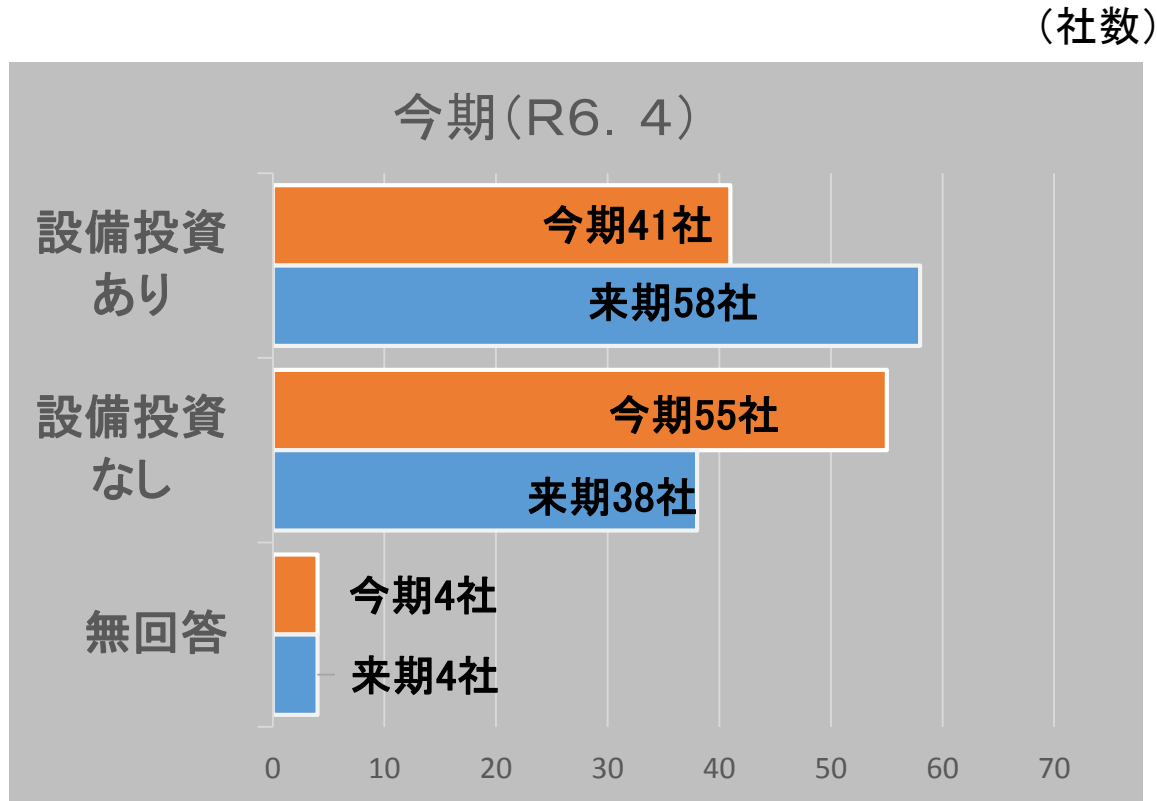
⑪ 今期の業種別業況DI

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鑄造
前期に比して	▲7. 5	▲44. 5	▲18. 1	14. 4	▲24. 9	▲33. 3
前年同期に比して	▲35. 0	▲26. 0	▲36. 3	▲14. 2	▲8. 4	▲33. 3

⑫設備投資について

調査企業数: 100社

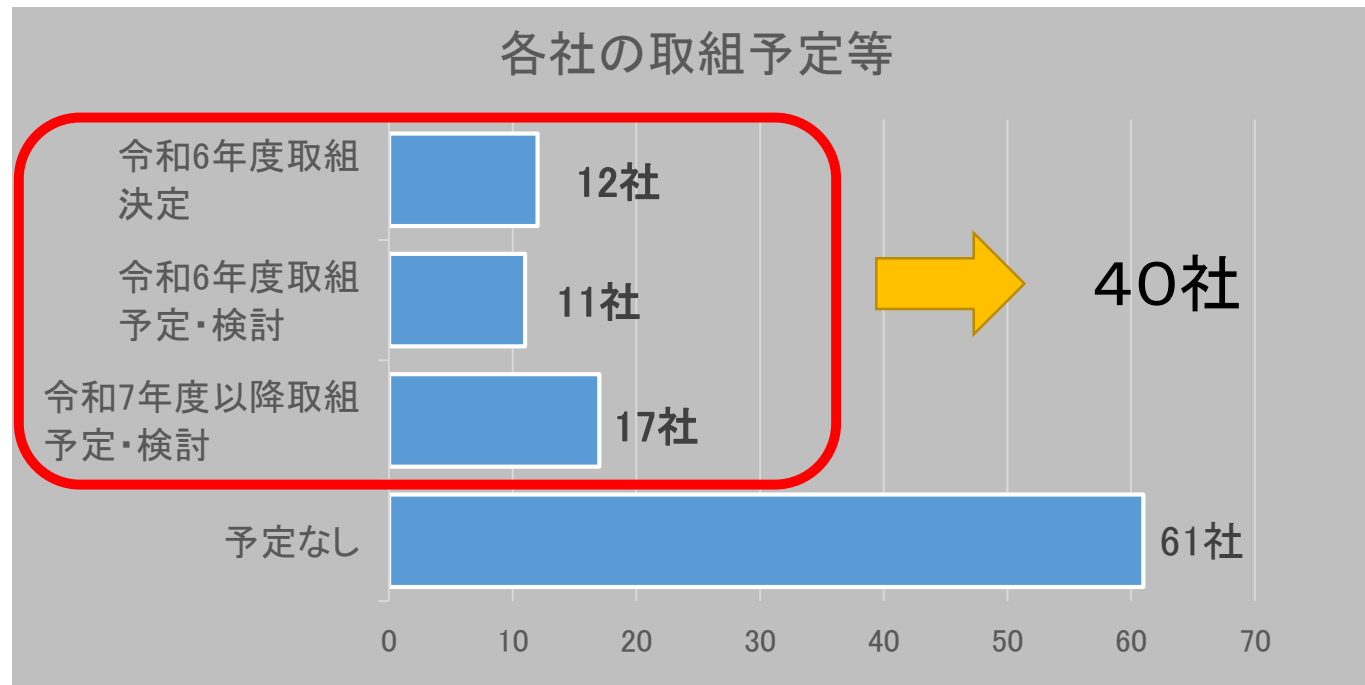
・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が今期41社で、前期47社より減少しており、来期に設備投資を行う予定の企業は58社で、前期44社より増加しています。

⑬省力化・自動化設備の導入予定(複数回答あり)

調査企業数:100社



省力化及び自動化機器の設備投資を4割の企業で決定・予定されており、人手・人材不足への対応、生産性の向上を図るための取組が期待される。

具体的な設備名等

・省人化ロボット ・検査工程自動化設備 ・はんだ付けロボット ・自動バリ取り装置 etc

⑭円安の影響について

調査企業数:100社

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	全体
好影響を受けている	4	2	0	0	0	0	6
悪影響を受けている	13	12	4	4	6	1	40
現時点では不明 この先を心配する	13	10	4	2	2	2	33
影響を受けていない	10	3	3	1	4	0	21

輸入材料価格の高騰などを中心としたコスト増により、悪影響を受けているもしくはこの先を心配している企業が多い一方で、少数ではあるが輸出産業に係る製品製造等を携わっている企業においては好影響を受けていることがわかった。